

デジタル時代における絵本・本の価値を探る —子どもたちの豊かな読書環境の実現を目指して—



秋田喜代美

(東京大学教育学研究科)

東京大学Cedep × (株)ポプラ社共同研究プロジェクト

教育学部

Cedepの当プロジェクトの理念的特徴

「メディアはメッセージ」(マクルーハン)

子どもをとりまく環境の未来をメディア(絵本、本)から捉える。文化継承・創造の中核となるメディア

子どもの権利、子どもは市民

子どもと関わる大人のCo-Agencyを引き出し、Well-beingを保障する社会の形成

多様性(diversity)と包摂性(inclusion)の保育学に基づき、一人一人のかけがえのない尊厳を大事にする

多様な研究方法にもとづく実験・調査・実践という実証研究にもとづく社会的な提言に向かう

多様な研究アプローチで絵本・本研究へ挑戦する

Covid-19が与える影響に関する研究

新型コロナは子どもや家庭園をはじめ本をめぐる環境にも研究者にも大きな影響を与えている

読書生活のNew Normalを問う



実験
相互作用
佐藤報告

思想・実践史
若林報告

調査
家庭・園・図書館
高橋報告

- オンライン実験
- 紙とデジタル

- 時代・比較文化
- 子どもの読む権利の保障

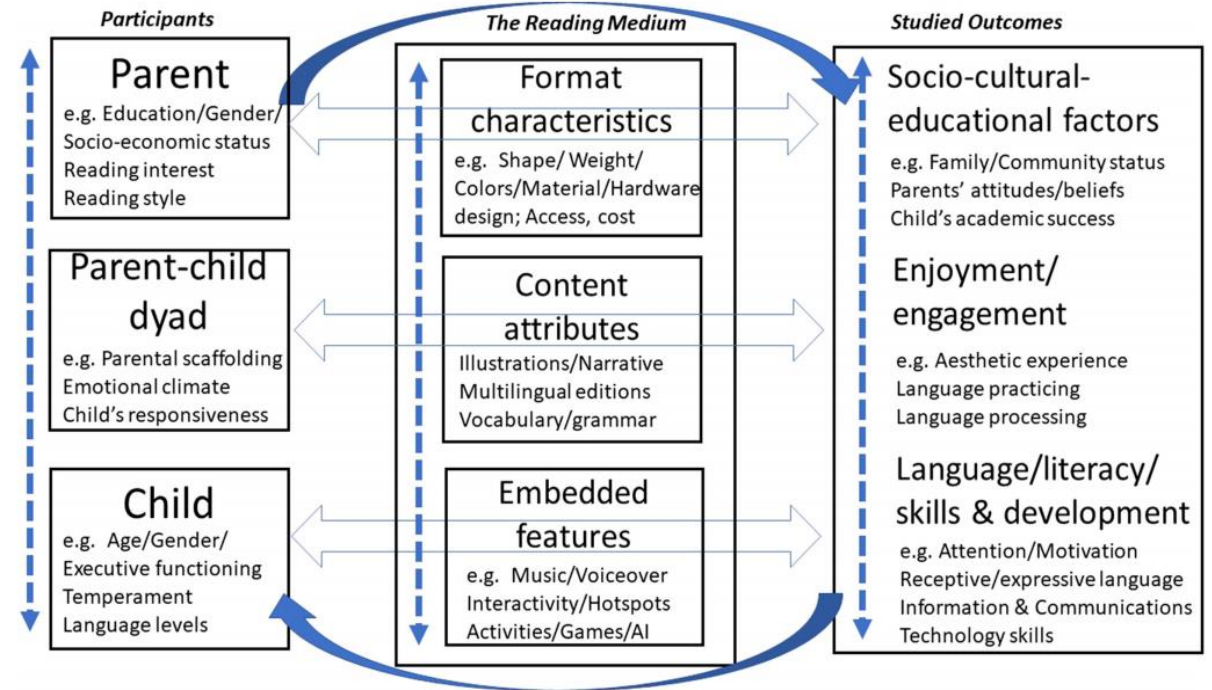
- 全国調査
- 領域間架橋
- 写真：物理的な場を捉える

本プロジェクトの志向性
筆者の視点

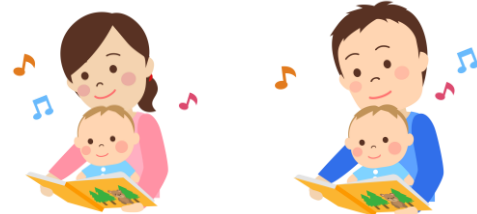
過去を超え
常識を超え
領域や国境を越えて
多様な声から
最前線の知を創造する
マインドセット

佐藤報告：紙絵本とデジタル絵本の相互作用比較研究

- 国際的な研究：両者で相互作用に明らかに相違があることは共有されている。ただし子どもに与える影響に関しては、正負いずれの効果も報告されており一定した知見は得られていない。それは、いろいろな要因が関与。ただしさまざまなハンデイのある子や経済的格差への対抗にはデジタルに意味があることも指摘されてきている。
- Kucirkova (2019) のレビュー (ノルウェー) 右の3要因間の関係を問う重要性を指摘



Child Development Perspectives, Volume 13, Number 4, 2019, Pages 208–214



大人子ども
態度価値

紙・デジタル
絵本・本

何を成果とみるか

東京大学教育学研究科・教育学部

さまざまな研究知見が出てきている。情動の関与、精読・深い読みには紙の本が適しているとも言われる。ただし日本の子ども研究での一定の見解はない



2008



2009



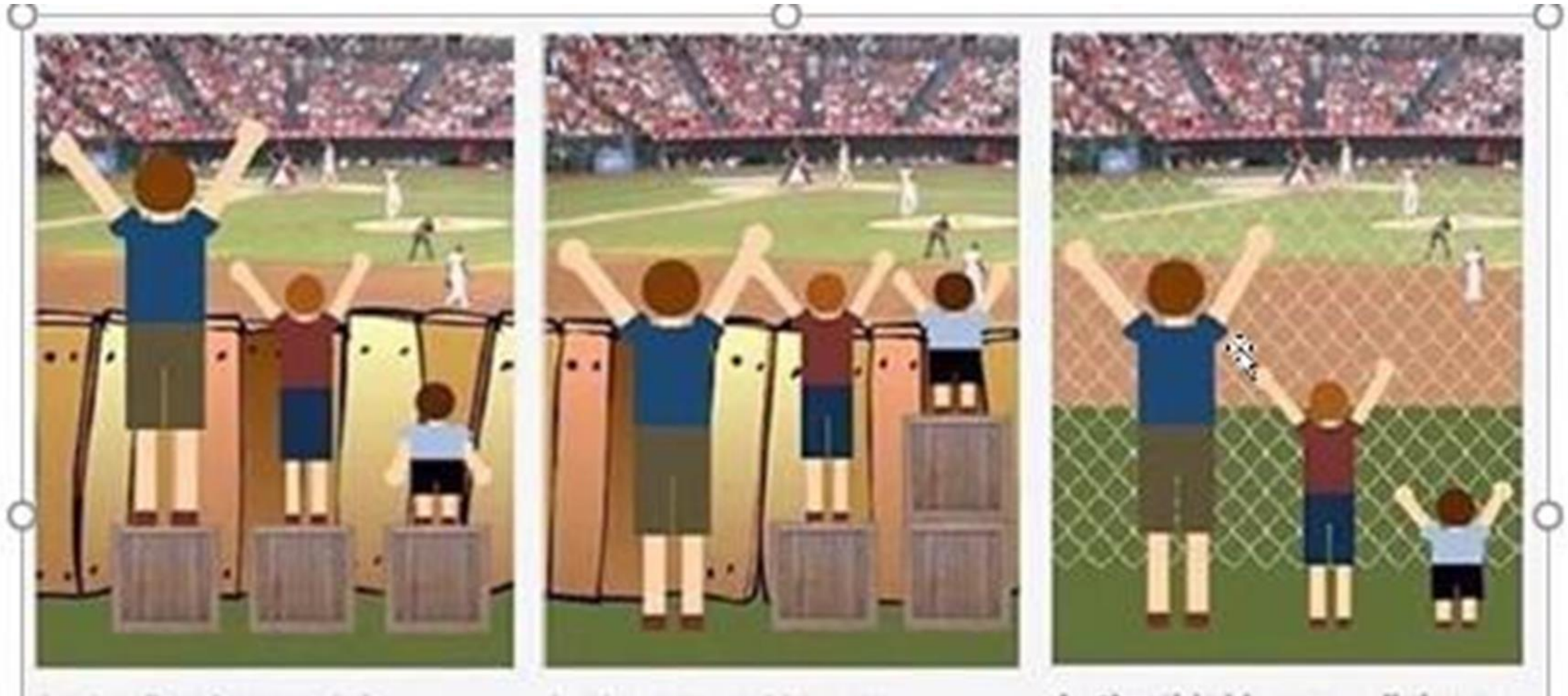
2011



2020



格差やハンディ縮小のあり方：紙・デジタルの両義性 (OECD E2030,GF 2020)



若林報告：子どもの読む権利 20年後を見据えて



6

生きる権利・
育つ権利



3

子どもに
もっとよいことを



12

意見を表す権利

日本 公共の動き

- 1953年 学校図書館法
- 1959年 子どもの読書週間
- 1993年「学校図書館図書標準」設定
- 2000年 **子ども読書年** 国際子ども図書館設立 ブックスタートパイロット開始
- 2001年 子どもの読書活動の推進に関する法律、NPOブックスタート
- 2014年 絵本専門士養成制度
- 2018年 認定絵本士養成制度



高橋報告：家庭・園・図書館をつないで捉える研究

マルチステークホルダー：多声的アプローチ 格差を補完し合い、安心して、だれもが継続的に参画 人・本・持続可能なネットワークの形成



ハイブリッドに良さをいかす方向性 Child's View
主体性(検索、選書、時間・読む空間)
アクセス可能性、多様性・包摂性



絵本・本でつながる人たちの笑顔や具体的な姿の共有
幸せ広げる愛情ことば Share books and joy with your children



子どものための読書環境構成のデザイン原理

OECD Education2030を参考に、秋田が今回作成

